

# 冬季でも春先に日なたぼっこ をする気分

全国(北海道から九州まで)  
縦断ユーザーレポート

## 床暖房の家

“健康な住まいと暮らし”を実現する  
床暖房派が急増中

千葉 / 国立療養所・千葉東病院





①正面の全景。今のところ床暖房の部屋は一か所ですが、きっと希望は増えていくのではないかと事務局では予想していました



②千葉東病院の入り口。内科、神経内科、呼吸器科、外科などがある総合病院です

床暖房施工／富士プラント・アルコ (☎03東京348-3801)  
カメラ／宮下信治

## 「これで子供達も寒さから開放されます」

「とくにからだの弱い子供たちですからね、冬でも風邪をひかせるわけにはいきません。そこで今年八月、子供たちのプレールームに温水式床暖房を導入したんです」

国立療養所・千葉東病院庶務課の照沼さんはこういって第一重症心身病棟を案内してくれました。同病院の重心病棟には一〇〇人の患者が入院していますが、うち四〇人が入院する第一病棟では今年夏、増築工事が行なわれ、倉庫とカンファレンスルームのほか約17坪のプレールームもできたのです。

「以前のプレールームは狭くて、子供たちは

交代で使っていたんですが、これからは朝九時から四時まで、みんながこの部屋で、看護婦たちと一緒に過ごし、食事をするんです」

第一病棟婦長の下村さんの話をきくと、ふれあいとスキシップの場であるプレールームはとても重要な部屋なのです。

「ご覧のように子供たちは、立って歩行することがむずかしく、ほとんど寝た状態です。寝返りをうつものにも看護婦の助けが必要なんです。ところがふつうの暖房は暖かさがみんな天井にいつてしまつて、立って歩きまわる私たちはまだいいとしても、子供たちにとって肝心の床はヒヤヒヤしているんですね。子供たちはきつと寒かったことだと思えます。ですから、この床暖房によってずっと改善されるのではないかと期待しているんです」(下



③床暖房を入れたプレールーム。「子供たちのからだの動きや目の配りを見ていると、みんなこの部屋が好きなんだということがよくわかります」と下村さん

村さん。  
床暖房の導入に踏み切ったのは厚生省の出先機関。同省の担当技官によると、とくに寒い雪国からの希望が多く、自分も様々な暖房を研究した結果、温水式床暖房が適しているとの結論を得たとのこと。  
「まず省エネタイプであること、室温が均一化していること、空気も乾燥しないなどのメリットがありますね。患者さんにとっては、冬でも、春先に日なたぼっこをしているのと同じ快適さが得られますよ」  
こう語る野崎技官は、老人保護施設はもち

ろん病院全体にも導入したいが、予算枠があるので、順次計画的にすすめるを得ないと話していました。  
千葉東病院のプレールームには、象や熊などのぬいぐるみがありました。入院している子供たちの誕生会もこの部屋でもよおすとのこと。  
床面に置かれているのは自記室温湿度計。床の温度を何度か保つか、厳しい寒さの冬を子供たちが快適に過ごすために、係の人は細心の注意を払っていました。



④第一重心病棟の一部。左端が増築された部分。手前がプレールームです。この部屋は看護婦さんが子供たちに本を読んであげたり、お話をしてあげる療養上大切な場所。子供たちの健康を第一に考え、床暖房によるはじめての冬を迎えるにあたって、室内の目線の高さど床面の温度を2つの温度計を使って綿密に計測していました